成長戦略（長期ビジョン・中期経営計画）

朝日工業社グループは、どのような時代、いかなる環境の下にあっても、たえず未来を見つめ、時代の変化とお客さまをはじめとしたステークホルダーのニーズに向き合い、果敢に挑戦して、社会に信頼され必要とされる企業集団であり続けたいと考えています。その想いを実現するために、「さまざまな可能性に挑戦する『オンリーワン・カンパニー』」を目指す姿（ビジョン）に据えた長期ビジョン「ASAHI-VISION 100」を策定しました。

そして、長期ビジョンの最終3rdステージ「変革の実現」として、新中期経営計画（2023年4月～2026年3月）をスタートさせています。

創立100周年
2025年4月

そして
その先へ

長期ビジョン「ASAHI-VISION 100」

～ C.C（Challenge to Change）変革への挑戦 ～

（2017年4月～ 2026年3月）

目指す姿（ビジョン）

さまざまな可能性に挑戦する
「オンリーワン・カンパニー」

- 当社グループは、さまざまなチャンスや問題に果敢に取り組み、価値ある挑戦を続けて、あらゆる人にとって、さらに魅力ある企業集団となることを目指します。
- 当社グループは、将来を見据えた積極的な経営と社会やお客さまのニーズを的確に捉えた独自の技術・サービスで、他社とは何か違う、他社より一歩先を行く、『オンリーワン』の企業集団を目指します。

1st Stage

「変革への着手」

- 基盤・体制の整備・強化
- ビジョン実現に向けての確実な着手

第16次中期経営計画
「POWER UP- PLAN 16」
（2017年4月～ 2020年3月）

主に「経営基盤の強化」と「働き方改革」に取り組むとともに、「ASAHI-VISION 100」の1stステージとして、ビジョン実現に向けた取り組みと、そのための基盤づくりを推進しました。

2nd Stage

「変革の加速」

- ビジョン推進の状況確認と的確なフォロー
- 必要な投資の戦略的実行

第17次中期経営計画
「SPEED UP- PLAN 17」
（2020年4月～ 2023年3月）

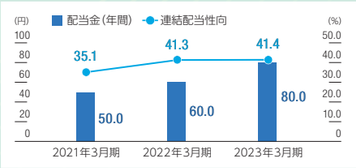
経営指標振り返り

連結の業績において初年度は、コロナ禍の影響や前期における設備工事事業の大幅な売上高の増加の反動で、業績が落ち込む結果となりましたが、2年目以降は、設備工事事業での受注高が好調に推移し、売上高も相応の成果を残すことができました。ただし、機器製造販売事業においては3年間を通じて、コロナ禍等での電子部品等の不足や海外での活動の制約などが大きく影響し、受注高、売上高ともに目標に大きく届かない結果となりました。

なお、利益面においては、重点項目とした「戦略的受注活動の推進」が徐々に効果につながっており、特に当期純利益は、最終年度においては目標数値を大きく超えることができました。

	実績			最終年度目標	達成率
	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期		
連結受注高	70,851	82,002	**86,778**	**86,000**	**100.9%↗**
設備工事事業	64,614	75,810	**82,093**	**78,500**	**104.6%↗**
機器製造販売事業	6,236	6,192	**4,685**	**7,500**	**62.5%↘**
連結売上高	70,435	68,820	**80,171**	**88,000**	**91.1%↘**
設備工事事業	62,685	63,295	**75,110**	**80,500**	**93.3%↘**
機器製造販売事業	7,750	5,525	**5,060**	**7,500**	**67.5%↘**
連結営業利益	2,235	2,287	**2,697**	**3,000**	**89.9%↘**
連結当期純利益	1,821	1,860	**2,480**	**2,000**	**124.0%↗**

資本政策においては、資本効率の追求と財務健全性の維持向上に取り組み、30%以上とした連結配当性向および1株当たり年50円とした普通配当については、3年間とも目標達成することができました。



3rd Stage

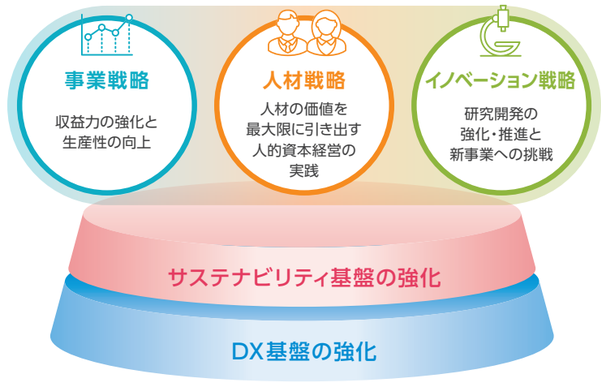
「変革の実現」

- ビジョンの実現・達成と評価
- 次なる飛躍への挑戦

新中期経営計画（2023年4月～ 2026年3月）
～ Beyond the 100th（100周年のその先へ）～

本中期経営計画は、長期ビジョン「ASAHI-VISION 100」の最終ステージとして、そのビジョンで目指す姿を追い求めるとともに、「人間・社会・地球環境の持続可能な発展（サステナビリティ）」に資する事業活動を推進するものですが、それを可能とするためには、何よりも収益力の強化と生産性の向上が不可欠であり、また新たな価値の創造に向けたイノベーションが重要となります。

本中計期間中の2025年4月に当社は創立100周年の節目を迎えますが、これを新たな出発点として、“100周年のその先へ”、当社グループは社会に対して新たな価値を創造する「オンリーワン」の存在を目指し、その基盤となるよう本中計に取り組んでいきます。

基本方針

100周年とその先へ向けて、3つの戦略とそれらを支える2つの基盤強化に取り組む。